

まだ、間に合いますよ！

○今年、久留米高校の生徒が熊本大学と立命館大学に合格しました！しかも、この生徒は選抜クラスの習熟度別クラスの生徒でもなければ、英語科の生徒でもありません。選拔されない普通科の生徒ですから、佐賀大学や西南・福大に合格できれば良い方です。しかし、彼は学校が終わるとまっすぐにここに来て、自習していました。よく、言う事を聞きました！

○その生徒が、初めて体験に来たのが5月30日でした。本格的に勉強を始めたのが、体育祭が終わる6月中旬からでした。普通の生徒ですから、センター試験の漢文は14点で合格しています。センター試験の漢文で、15点以上得点しているけど、熊本大学に合格できなかったという生徒は、勉強の作戦がおかしいのです。センターの国語は難しいです。ですから、捨てるのが基本です。特に、立命館をはじめ、私立大学は漢文を出題しません。ですから、漢文は勉強しない。ただでさえ、難しいセンターの国語で、更に私大に出ない漢文が異様に難しいとなれば、捨てるのが当然。佐賀大学医学部に合格した附設高校の生徒が、漢文で38点でした。国立の医学部と言え、昔は明善高校では「センターで9割取らないと、出願できないぞ！」と言われていたぐらいに難しいものでした。しかし、8割すら取れないものです。一般的な学生は、そんなセンター国語に付き合っている暇はありません。

○去年、9月に入会した久留米高校の生徒が、前期熊大が合格できず、後期で佐賀大学に合格しました。上の彼と同じ普通のクラスの生徒です。ここでわかりのように、大事なものはスタート時期です。同じクラスで、ほぼ同じぐらいの学力でした。6月スタートなら熊大にも届いたのですが、9月スタートでは届きませんでした。時間の差はハッキリ出ます。しかも、この生徒は9月から授業も受けて全力で頑張りました。6月からの生徒は、自習のみで10月以降にちょっと授業を受けたぐらいです。高1、高2の頃から自習だけで長く長期間勉強している生徒たちが、九州大学などに合格しています。

○6月から入会したその生徒の反省点は、英語のプリントを配るのが遅かった点ですね。久留米自習室では、大学受験マニュアル1000ページを作っていますので、彼はそれを必死でやっていました。それとは別に130ページの英語のカラープリントを配っています。去年までは、7月の夏休みから配っていました。しかし、その生徒が「英語がこんなに伸びるとは思わなかった！」と、それをやった結果、センター英語で178点、立命館にも熊大2次試験にも通用する力がつきました。しかし、彼はもっと早くから欲しかったと言いたかった様子でしたので、今年からは早く配るようにしています。既に、全員には第1回を配っています。今は体育祭前なので、無理をしなくてもいいですが、欲しい生徒は第

2回以降も取りに来て良いとします。ちなみに、体育祭がずっと後の明善高校生たちには、定期考査終了後から強制で渡しています。九大以上を狙うには、それぐらいの覚悟が必要ですね。6月に体育祭がある高校の生徒たちは、体育祭直後から英語のプリントを強制的に渡していきます！一回分のプリントは、一週間かかる内容ですが、来たら毎回渡します。第13回までが一番重要で、それ以降は九州大学などの難関を狙っている生徒用です。今年は久留米高校の習熟度別クラスに入れない生徒たちを九大に合格させるように、チャレンジしますよ！